

子宮頸がん予防ワクチン・ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン接種事業

国のワクチン接種緊急促進事業の改正のため、次の3種ワクチンの接種事業が延長されることになりました（任意接種のため法的接種義務はありません）。



- 接種料金／無料
- 接種期間／平成24年4月1日～平成25年3月31日
- 必要な物／母子手帳、体温計、健康保険証（本人確認のため）
- 接種方法／広報かさい4月号と一緒に配布している「親と子の健康づくりカレンダー」をご確認の上、接種希望医療機関へ予約してください。

■子宮頸がん予防ワクチン

発がん性のあるウイルス感染を約60%防ぐワクチンです。

対象年齢	接種回数と間隔
○平成8年4月2日～12年4月1日生まれ的女性 ○平成7年4月2日～8年4月1生まれの方で、平成24年3月末までに1回以上の接種を終えている女性	一定の期間で3回接種

※原則、保護者同伴で接種してください。保護者が同伴できない場合は、事前に下記問合先までご連絡ください。

■ヒブワクチン接種

小児のかかる細菌性髄膜炎の半数以上の原因となる細菌「ヒブ（Hib）」による感染症を防ぎます。

接種開始年齢	初回	追加
生後2か月以上～7か月未満	4～8週間間隔で3回接種	初回終了から約1年後1回接種
生後7か月以上～12か月未満	4～8週間間隔で2回接種	初回終了から約1年後1回接種
1歳以上～5歳未満	1回接種	

■小児用肺炎球菌ワクチン接種

細菌性髄膜炎など、肺炎球菌による重い感染症を予防する、子ども用のワクチンです。

接種開始年齢	初回	追加
生後2か月以上～7か月未満	27日以上間隔で3回接種	初回終了から60日以上あけ12～15か月齢で1回接種
生後7か月以上～12か月未満	27日以上間隔で2回接種	初回終了から60日以上あけ1歳以降に1回接種
1歳以上～2歳未満	60日以上間隔で2回接種	
2歳以上～5歳未満	1回接種	

【問合先】 健康課 ☎428723 FAX427521

高齢者の肺炎球菌ワクチン予防接種費を助成します

加西市は、高齢者の肺炎球菌に起因する肺炎の発症及び重篤化を予防するため、4月から肺炎球菌ワクチン予防接種費用の一部を助成します。この予防接種は本人の希望による任意接種です。接種については事前に医師と相談し、十分納得した上で行ってください。

- 対象者／予防接種を受ける日に市内に住所を有する満65歳以上の方で、過去に肺炎球菌ワクチン予防接種費の助成を受けていない方。
- 助成の回数／1人につき1回限り
- 助成金の額／接種料金の2分の1の額（上限4,000円）

■申請の方法

接種場所	申請手順	必要な物
市内の医療機関	接種前に、市役所健康課で申請し、肺炎球菌ワクチン接種助成券の発行を受けてください。	印鑑、健康保険証等の身分証明
市外の医療機関	接種後に健康課へ申請してください。	印鑑、領収書、接種済証、振込口座番号等のわかるもの、健康保険証等の身分証明

※希望する医療機関に、肺炎球菌ワクチン予防接種が可能かを事前に確認してください。

【問合先】 健康課 ☎428723 FAX427521

加西病院のコーナー

加西病院ホームページ <http://www.hospital.kasai.hyogo.jp>

新しい年度の目標

■年度と目標

病院では毎年4月に新しい目標を立て、医療と病院を良くするために達成の努力を行っています。今年度の加西病院の年度目標は「教育体制の更なる充実を図ろう！」です。

■加西病院を巡る状況

国レベルの問題としまして、社会保障費の増大と財源不足から、社会保障体制の改革が行われようとしています。医療は社会保障制度の主要な一つです。しかも近年高齢化や技術革新に伴い大幅な費用の増大が続いています。医療と介護にわたる制度変更が避けられない情勢です。これまでの国の施策を見る限り、加西病院のような多くの診療科を揃えた中規模病院への財政的風当たりは強くなるでしょう。

次に北播磨圏の問題としまして、来年の秋、規模の大きい北播磨総合医療センターがオープンします。現状でも医師や看護師の獲得競争が過熱する中、病院間の人材争奪戦が激化するのには必至です。加西病院が生き残れるかどうかは、優秀な病院人材を持つことができるかどうかにかかっています。そのために本院が患者にとってのみならず医療者にとっても安心な場であるよう、全ての人の意識改革が欠かせません。

■教育が新年度の目標

以上の状況を踏まえ、病院としては職員の専門的な職能を深め、医療のレベルを高め、そのような充実

が働く職場としての魅力につながり、人材と患者が集まる病院に伸びていかなければなりません。それが成功するには教育の力が必要です。当然教育費は増大します。しかしそれ以上に、職員全員が学びと研鑽の気概を持つことが前提になります。

学びの意欲を高めるには、学びの時間や教育費の確保と、学びの結果が評価され仕事の充実に結びつく環境が必要です。それを担保するのは、結局、人と制度です。加西病院では、今年度、看護部に教育専従の指導者を置きます。また薬剤師を外来の調剤業務から入院中の患者のチーム医療に関わる病棟薬剤師へ移動させます。事務職においては、終身病院事務だけを職務とするプロパー職員を導入します。これらの事業を成功させるには教育へのエネルギー注入が必須であり、それが上手いければ今度はそれが院内の人の育成の潮流を強める作用を起こします。



看護師詰所で医師のレクチャーを受ける職員

■最後は市民の意志と協力

このように教育に関する多くの課題が平成24年度に集中しています。本年度の病院目標を「教育体制の更なる充実を図ろう！」とする所以です。加西病院は市民のための病院です。教育への投資は最初目に見えなくても、やがて大きな価値を創造します。市民の皆さんには、病院職員が教育のための時間的余裕とお金を確保できますよう、できるだけ支援をお願いする次第です。

（病院事業管理者・院長 山邊裕）

救急自動車など2車両を更新

加西消防署は、次の2車両を更新整備しました。

■災害対応特殊消防ポンプ自動車

高い消火能力を有するCAFS装置（水と消火薬剤の混合液に圧縮空気を圧入し生成された泡を放射する装置）を搭載。緊急消防援助隊の消防部隊として登録し、大規模災害時には広域応援出動します。



災害対応特殊消防ポンプ自動車

■高規格救急自動車

高度化が進む救急業務に対応できるよう、高度救命処置用資機材（気道確保用資機材・自動体外式除細動器等）を搭載。日々多様化する救急業務に有効活用し、救命率の向上・高度な救急サービスを提供します。



高規格救急自動車

【問合先】 加西消防署警備係 ☎420119